

1. 研究目的

現在、いじめ問題や引きこもりなどが増加しており、人を思いやる心や他人との接し方などが問題となっている。このような問題をひきおこす原因の一つが生活環境におけるプライバシーとコミュニケーションのバランスにあると考えた。そこで両者を扱う対象として、寮を題材にすることが適切だと考えた。そこでは個人としてのプライバシーを大切にしながら他人との適切な関係を築くことが重要である。この研究では、学生の視点から自室で求められるインテリアの提案を行う。

2. 調査と分析

寮内での学生の生活の仕方の現状を把握する為体験宿泊をさせていただき、学生自室、間取り、共同生活する上での問題点などの把握をした。学生のつくりは A タイプと B タイプの部屋の2種類のタイプがある。

A タイプ：1, 2年生の使用する2階の部屋は1部屋を大きくカーテンで2分割した状態で部屋を区切る。現在2階の部屋はプライバシーの確保が難しい状態になっている。

B タイプ：3, 4, 5年生の使用する寮内3階の部屋は壁で覆われている状態になっていて、プライバシーは確保されているがお互い交流が取りづらい。

また、現在3階にある用途不明な空間はあまり利用されず、整理整頓されていない状態になっている。

3. コンセプトの立案

「プライバシーとコミュニケーションの両立」

プライバシーを確保しつつ、人との付き合いを円滑に行える生活空間を作り、廊下上に空いた空間に利用価値を見出すため有効活用する。

4. デザイン展開

「プライバシースペースの確保」

A タイプは両端のスペースを専有しているベッドを外し中心に中央に配置して2層のベッド空間として利用する。中心上部にベッドによる凸型壁面を設けることで、各自個人スペースが生まれる。

「コミュニケーションスペースの確保」

コミュニケーションスペースとして明確とした空間を設けることで、そこは学生同士の交流の場として利

用を促す。

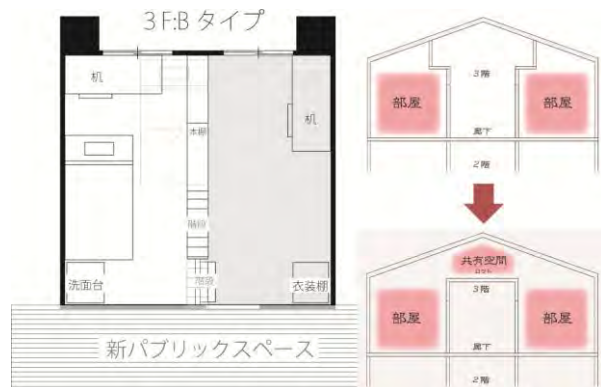
「新たなパブリックスペースの提案」

B タイプ3階自室から新たに各部屋から繋がるパブリック空間を設ける。段差によるパーティションによって緩やかに階段を上がることでパブリック空間へ繋がる。

5. 完成図



A タイプのリノベーション図



B タイプのリノベーション図

6. 結論

完成モデルを寮生に見せて意見をもらい、アンケートを行った所、個人スペースと共有スペースの中間点のアイデア提案は、今回のコンセプトに沿っているという支持を多くもらう事ができた。新たなパブリックスペースの提案も面白くて良いとの意見を多く頂いた。しかしプライバシーの点では、視覚的には守られているものの音漏れの心配などがあったり、共有スペースの空間が少し狭く感じる等の意見もあり更なる考察が必要なが分かった。

文 献

・(1998)『コンパクト建築設計資料集』日本建築学会